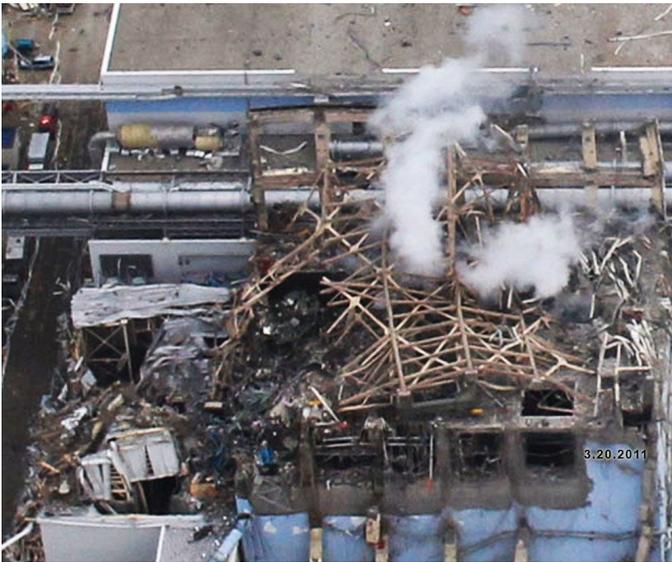


3・11 シンポジウム ジウム

チェルノブイリ 30 年
東電福島第 1 原発事故 5 年

核の危険 放射能被害の 根絶を



日時：3月11日(金)

午後 2 時～5 時 (1 時 30 分開場)

会場：平和と労働センター2階ホール

主催：原水爆禁止日本協議会

参加費：資料代として、大人 1000 円、被爆者・大学生 500 円、高校生以下無料

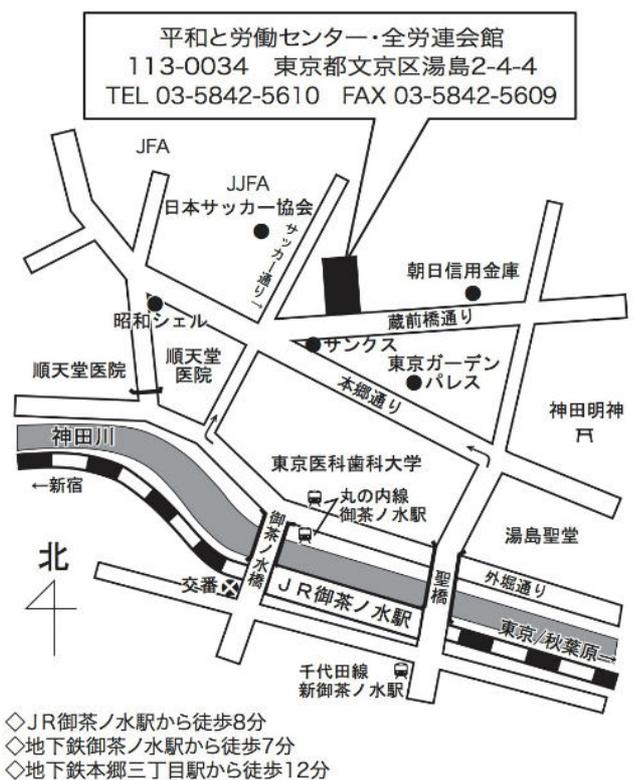
■福島からの証言

齋藤 紀 (日本原水協代表理事、わたり病院医師)

■東電福島第一原発の現状と核燃料サイクルについて

舘野 淳 (核・エネルギー問題情報センター<NERIC>事務局長)

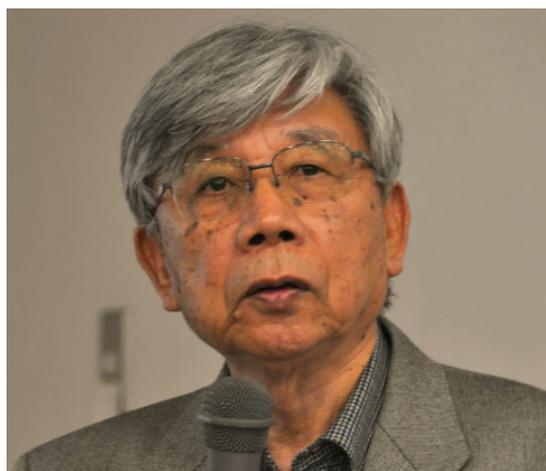
■原発再稼働・輸出に固執する日本政府の姿勢を斬る
国会議員 (要請中)



シンポジスト紹介

齋藤 紀 (さいとう・おさむ)

福島県立医科大学卒、広島大学原爆放射能医学研究所内科（臨床血液学）、広島中央保健生協福島生協病院、同・名誉院長、日本原水協代表理事、核戦争防止国際医師会議（IPPNW）日本支部会員。現在、福島医療生協わたり病院医師として日々、住民の生活と健康に向き合っている。昨年10月には、被爆70年ヒバクシャ遊説 in ヨーロッパに参加し、フィンランドとスウェーデンを訪問。核兵器の非人道性と原発の危険性を伝え現地の平和運動との連帯を探った。



館野 淳 (たての・じゅん)

工学博士。59年、東京大学工学部応用化学科を卒業。日本原子力研究所の研究員を経て、97年より中央大学商学部教授に。2007年、同大退職。専門は原子力（核燃料化学）。現在、核・エネルギー問題情報センター（NERIC）事務局長として、機関紙「NERIC NEWS」の発行や講演を通じ、元研究者の立場から、原子力やエネルギーに関する情報を提供している。著書に『どうするプルトニウム』『徹底解明 東海村臨界事故』『廃炉時代が始まった—この原発はいらない』など。

この他、国会議員に要請中。

国連認証 NGO・原水爆禁止日本協議会（日本原水協）

TEL 03-5842-6031 FAX 03-5842-6033

ホームページ：<http://www.antiatom.org/>

聞いてみたいことを受付中！

Email：antiatom55@hotmail.com